

## 編集後記

『史学論叢』第21号を林章教授の追悼号とするという計画は、昨年秋にもち上がった。史学科の教員はもちろん、ゆかりの方々へ原稿を依頼する作業は今年になってから始められた。出身校である京都大学の先輩や後輩の人々、加えて、林先生と共に教鞭を執られた先生方へも寄稿の依頼を行った。その結果、たくさんの反響があり、「思い出の記」や「論文」が寄せられ始めた。

6月17日（日）に林章教授の偲ぶ会を企画し、追悼号はそれまでに完成すべく作業にはいった。しかし、ひとえに編集者の怠慢により、仕事は遅々として進まず、偲ぶ会の日は刻々と近づいて来た。何しろ、寄稿論文13、それに林先生の卒業論文も加えて14、追悼文3、かなりのページ数になることが予測された。『史学論叢』始まって以来の厚みとなり、これまでで最大の冊子になるであろうことが分ってきた。結局、偲ぶ会までに発行することが出来ず、当日、御遺族には追悼号の目録のみを贈呈せざるをえなくなった。

途中、編集者の一人が病氣入院というアクシデントも発生し、行く手に暗雲がたちこめた。しかしながら、とにもかくにも、なんとか発行までにこぎつけることができた。玉稿をお寄せいただいたの方々には、心から謝意を述べたい。

『史学論叢』第21号を林章先生の追悼号として、つつしんで御霊前にさげます。そして、心より御冥福をお祈り申し上げます。

合掌。